

## 錯覚利用の英語教材？



今井邦彦

しばらく会っていないアメリカ人の友達から *Test for Dementia* なるものが届いた。「あいつも同年配で大分年取ったはずだから、試してやれ」という気持ちだったので。もしかしたら、自分が間違ったので、犠牲者(?)を増やしたかったのかもしれない。

解いているうちにこれは英語の教材に使えるのではないかと気が付いた。問題にはすぐ答えなくてはならない(ゆっくり考えさせると解答者の錯覚を利用できない)ので、速読の訓練になるし、録音で出題すればリスニングの能力も試せる。まずはお試しあれ。

問1: You are participating in a race. You overtake the last person. What position are you in?

問2: If you overtake the second person, then you are ...?

問3: [暗算に限る] Take 1000 and add 40 to it. Now add another 1000. Now add 30. Add another 1000. Now add 20. Now add another 1000. Now add 10. What is the total.

問4: Mary's father has five daughters: 1. Nana, 2. Nini, 3. Nunu, 4. Nene.

What is the name of the fifth daughter?

問5: A mute person goes into a shop and wants to buy a toothbrush. By imitating the action of brushing his teeth he successfully expresses himself to the shopkeeper and the purchase is done.

Next, a blind man comes into the shop who wants to buy a pair of sunglasses; how does HE indicate what he wants?

さて解答は？

答1: 「最後から2番目」なんて答えたら×。「最終走者を追い抜く」などということはあり得ない。

答2: 「先頭」と答えたくなるがこれは×。2番目かもしれないし、「先頭走者は追い抜けなかった」とは書かれていないから先頭である可能性もある。正答は「1位か2位」。

答3: 4100。1000が何遍も出てくるし、40, 30, 20, 10がバラバラな場所に出てくるので、その合計100を1000と錯覚し、5000と答える人が多いらしい。

答4: Nono? ×! 問4の最初に Mary と書いてあるのをお忘れか？

答5: 錯覚さえ起こさなければ簡単な話で、盲目の人は口で、「サングラスをください」と言えればいいわけだ。錯覚は最初の客が啞で、口による伝達に困難があったため、第2の目の不自由な客にも何らかの伝達困難があると思いついてしまうところから発する。HEに文強勢があるため、「さあ、二番目の客(HE)の方には別種の困難があるはずだ」という気持をテストされる側は抱かされやすい。

ところでこの英語教材の使用には注意が必要かもしれない。筆者は実はこの手のクイズが得意ではない。もし中学の英語の時間にこの種の問題、特に計算の絡んだ問3などを出されたら、英語嫌いになっていたかもしれないからである。はて、筆者十代から認知症だったのかな？

(いまい くにひこ・東京都立大学名誉教授)